

龍馬は明治に殺された？／「河馬」「水馬」読み方は？

通学路に「クイズのおっちゃん」

なぞなぞから漢字までジャンルは幅広く、出題数は1000問を超えた。今や学校公認の存在で、男性は「知らないことは調べる、という意欲に結び付けてくれれば」と話している。

「手術室で活躍するのは男性と女性どっち？」一。松ヶ崎小（京都市左京区）の登校時の見守り活動をする男性（58）が、毎朝児童にクイズを出す「クイズのおっちゃん」として人気を集めている。

松ヶ崎小児童に出題1000問超

松ヶ崎学区社会福祉協議会会長の西野信雄さん（左京区松ヶ崎木ノ本町）。病院事務職を退職して昨年4月から通学路に立ち「声を掛けるだけでは子どもとの仲が深まらない」と、クイズを書いたカードを配り始めた。



登校中の児童にクイズを書いた紙を手渡す西野信雄さん。「今日の問題ちょうだい」と子どもが次々に集まってくる（京都市左京区）

当初はなぞなぞや雑学だけだったが「勉強にもなるように」と算数や歴史なども加えた。「河馬」「水馬」の読み方や「ミニス」には頭と尻の区別がない。○か×か。「坂本龍馬は明治になってから殺された。○か×か」など、自分で考えたり本から引用して毎朝10問を出題している。

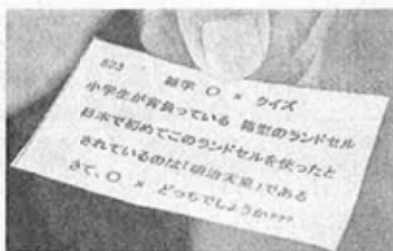
徐々に児童の間で知られるようになり、今では約40人が「クイズちょうだい」「昨日の答えは」と駆け寄るまでに。友だちの分までもらっていき子や、子どものために出動途中に受け取りに来る父親もいる。

雑談をしたり、悩み事を相談してくる児童

登校見守り 雑談、悩み相談も

もいる。昨年11月に急性心不全で入院したときは「待ってるから、元気になってね」と児童から手紙をもらった。松ヶ崎小も「地域ぐるみで子どもを育てる意味で、大きな存在」と期待を寄せている。西野さんは「仲の良い子とは、クイズが解けるかどうか毎朝勝負をしているようなものです」と笑顔を浮かべた。

（中塩路良平）



西野さんが手作りしているクイズの問題を書いた紙。漢字や算数、歴史のクイズもある（京都市左京区）